

先駆 1974年12月20日 第3種郵便認可

2021年9月号

8月25日発行(通巻1000号)

毎月1回25日発行

月刊

先 駆

2021 9 月
1000 号

- ◆ コロナ失政で落城寸前の菅政権—公的支援強化で野党連合
- ◆ 《寄稿》再稼働目前だった柏崎原発—最新状況報告
- ◆ 『先駆』1000号を迎えて—一年表・臨時増刊・連載



The Front-League for Socialism, Japan
フロント [社会主義同盟]

『先駆』1000号記念

『平和と社会主義』『先駆』

1000号の歩み

編集部

『平和と社会主義』『先駆』

1000号の歩み

暦年	月	内容
1962	5	統一社会主義同盟結成大会
		機関誌「構造改革」発刊
1963	6	同盟第2回全国大会
	11	ケネディ暗殺
1964	1	機関紙「平和と社会主義」創刊
		雑誌「現代の理論」創刊
	7	3回全国大会
1965	7	平和と社会主義50号
	11	4回全国大会
1966	10	5回全国大会

多くの読者、筆者、スタッフに支えられた59年

『平和と社会主義』『先駆』通巻1000号を記念して、本誌では今年2月号から「1000号記念」企画をシリーズで掲載してきた。以下、見出しと発行月。

機関誌「構造改革」の時代（2月号）、「平和と社会主義」の思い出（3月号）、題字「先駆」への改題（4月号）、「先駆」発行停止（5月号）、「先駆」編集の思い出（6月号）、「先駆」注目論考（7月号）、「先駆」新聞形式からタブロイド判、雑誌へ（8月号）。

1000号にあたる今号では『平和と社会主義』『先駆』1000号の歩み」として1962年から2021年までの5

先駆臨時増刊と長期連載企画

〔先駆臨時増刊〕

・「第19回大会報告集（ソーシャル&グリーン）」2001/3 747号

・「日本と朝鮮」2006/10 814号

三浦孝介

・「格差社会」をめぐる論争（上）（下）2007/2 819号（上）07/5 823号

編集・執筆 葛西豊



・「スターリン批判から構造改革派の形成へ」2009/3 846号
大森誠人、直原弘道、葛西豊、富田武

・「21回大会報告集」2009/9 853号

・「22回大会報告集」2013/8 902号

・「50周年特別号 1968年―同盟の歴史と教訓」2012/11 892号

〔連載企画〕

平和と社会主義

・「組織論の周辺」1965/5〜12 19回
大森誠人／直原弘道

〔先駆〕

・「大阪環状線のつたり歩いたり」2001/8 303/3 17回
写真と文 三浦孝介

・「日本と朝鮮」2003/4〜05/10 27回
三浦孝介

1967	3	平和と社会主義1000号
	11	6回全国大会
1968	9	「平和と社会主義」フランケット版
	2	東大安田講堂攻防戦
	5、9	7回、8回全国大会 新指導部成立
	10	「先駆」に改題（184号）
1970	4	先駆200号
	12	9回全国大会 日本共産主義革命党に変更
		機関誌「団結」創刊
1971	3	機関誌「団結」創刊
	4	団結2号発行
	6	沖縄返還協定調印
	10	団結3号発行
1972	3	八中総整風運動、先駆停刊
	10	先駆再刊（257号）
1974	8	10回全国大会 9大会綱領に対する態度
	12	団結4号発行
1975	7	先駆300号
1976	11	団結7号発行
1977	1	11回全国大会第1回会議
1978	3	団結8号発行
	12	団結9号発行

9年間の年表（上段）と臨時増刊号、長期（1年以上）連載企画（下段）の一覧をまとめた。年表では100号ごとの年次、同盟大会と主なテーマ、判型変更、機関誌「団結」の発行、主なフロント・ギャザリング（政治学校）など暦年の活動を掲載、大きな政治・社会の動きも加えた。

1000号を振り返ると、新聞の時代（653号まで）、雑誌の時代（現在まで）で大きく内容が変化していることに気付く。タブロイド判を含む新聞の時代は理論機関誌「団結」の発行が続いたこともあって、時々の政治動向、政治課題・指針の提起、労働運動方針や集会報告が大半で、ほとんどの号が見開き4ページ、発行回数が月2〜3回と読者との接触頻度が高かった。しかし1992年の雑誌化で発行が月1回刊となったこともあって、「特集 時代の転換にあたって」（1993年1月号）、「特集 学校現場から」（1994年2月号）、「国民年金構想についての視点」（1995年8月号）など特集、論考が中心となり、集会報告や集会案内が姿を消し、同盟員が関わる社

1979	1	11回全国大会第2回会議
1980	5	先駆400号
1981	11	12回全国大会 社会主義的潮流の形成
1982	11	団結10号発行
1984	1	13回全国大会 時代に立ち向かう党建設
	2	団結11号発行
1985	4	先駆500号
1987	2	14回全国大会 フロントに党名変更
	12	団結14号発行
1988	3	15回臨時大会 社会主義連合参加決議
1989	1	天皇裕仁死去
	11	先駆600号
1990	12	16回全国大会 政治局廃止
1991	2	団結15号発行
	8	1回フロントギャザリング 長良川
	12	団結16号発行
1992	6	雑誌先駆に変更(654号)
	8	政治連合結成、「opia」創刊
1994	4	17回全国大会 同盟30周年

会運動圏の活動報告、理論・政策提起などが大きなウエートを占めるようになる。それでも雑誌化した1990年代前半は「Opia」、「ACT」との併走だったこともあり、一号の原稿掲載が28ページから40ページ未満と今ほどの厚さはなく、時には7・8月合併号と原稿集めに苦勞する姿が窺える。しかし雑誌に慣れ始めた2000年以降、中、長期の連載企画が登場、誌面を埋め始める。2001年8月号から03年3月号まで17回の連載となった「大阪環状線のつたり歩いたり」が長期連載の第一号で筆者はすでに故人となった三浦孝介氏。三浦さんはその後も長期連載を担当、『先駆』の雑誌化を支えた一人だ。

誌面編集から見ると、連載ものがあるページ数の確保にメドが立ち、政治論考、コラム、書評、時事的話題、運動圏からの報告などを手配すると雑誌としての形が整うという利点がある。そこで、毎月の編集方針で長期連載を企画することになるが、2005年10月(801号)には「革命家・労働運動家列伝」(樋口

・「800号記念連載企画 革命家・労働運動家列伝」	2005/11/06/9	11回、「その2」07/8、9の2回 計13回	樋口篤三
・「私の戦後史―あの日・あの頃―」	2006/4/08/3	15回	大塚正立
・「陸上自衛隊演習場レポート」	2006/5/08/3	22回	三浦孝介
・「公務員制度「改革」」	2006/4/07/12	19回	須崎忠良(小山)
・「元気の出る読書番外編『格差社会』をめぐる論争」	2006/8/07/2	7回、「続格差社会をめぐる論争」07/6から11	6回、計13回 編集・執筆 葛西豊
・「モンゴルからの通信」	2006/10/08/9	24回	金高毅
・「1968年論」	2008/8/09/6	11回	編集部、朝日健太郎
・「1968年論総論編」	09/10/1	4回	葛西豊
・「なにわ百景」	2009/9/11/12	24回	

1995	1	阪神・淡路大震災
	1	ACT発刊
	9	フロントギャザリング 長岡
1997	1	先駆700号
	11	18回全国大会 市民社会と政治
2000	11	19回全国大会 政治宣言、規約改正
2002	2	統社同・フロント40周年の集い
2004	9	第三次「現代の理論」創刊
2005	4	20回全国大会 社会改革プラン
	9	先駆800号
2008	1	フロントギャザリング 熱海
	9	リーマンショック
2009	6	21回全国大会 対抗社会に向けて
	7	先駆850号
2010	4	先駆表紙のカラー化
2011	3	東日本大震災
	4	先駆緊急特集「東北関東大震災」(872号)

篤三)、「元気の出る読書」(葛西豊)、「日本と朝鮮」(三浦孝介)の3本の長期連載が並び、48ページの厚さに拡充、2006年以降は40ページ超が常態化する。

ちなみに最も長く続いた連載は途中での改題を含めて丹羽通晴氏が2012年から17年まで書き続けた「橋下ウオッチ」、実に52回。次いで三浦孝介氏の「日本と朝鮮」(2003年〜05年)の27回、金高毅氏(故人)の「モンゴルからの通信」24回、三浦さんの「なにわ百景」24回。安藤紀典氏が2018年4月号から連載を始めた「評伝飛鳥井雅道」は現在進行形で、8月号までで40回を数える。

1年未満の連載は取り上げなかったが、「日本の木」(2001年9回 藤島二三夫)、「短歌コラム アニマルプラネット」(2008年7回、浜岡なぎ子)、「ネパールからのたより」(2009年10回、木下愛子)、「紫色のガラス窓―女たちの視線から」(2014年9回)、「市従フロント物語」(2015年5回)など多彩。雑誌化されてから書評も不定期で登場するが、書評欄が常設されたのは2006年6月号からで、「元気の出る読

・「女たちの1970年代」	2010/1/11/13回	楠奈美子
・「韓国の断面と論調」	2010/6/11/4	10回 伊井由久佐
・「歴史の検証」新自由主義批判	2010/10/12/3	18回 葛西豊
・「作品」で読む関東大震災	2011/9/12/12	12回 安藤紀典
・「橋下ウオッチ」	2012/4/15/12	44回、16/1から「維新考」にタイトル変更、52回 17/3 丹羽通晴
・「郡山からのたより」	2012/5/13/5	12回 嶋中起健
・「河北新報切り抜き帳」	2012/5/13/3	9回 白井理恵
・「同盟50年をふりかえって『構造改革論』の形成史」	2012/6/13/4	11回、「第二部」13/5、14/5 11回、「第三部」14/6、11/6回 葛西豊 解題



- 2012 11 統社同・フロント50周年の集い
- 2013 5 22回全国大会 市民、緑、リベラルの連携
- 6 先駆900号
- 2016 6 現代の理論改題1号発行
- 9 ギャザリング 静岡・裾野
- 2017 7 先駆950号
- 9 23回全国大会 もう少し頑張る道へ
- 2018 10 フロント塾 守谷
- 2019 11 フロント塾 野洲
- 11 現代の理論「出版3周年を祝う会」
- 2020 4 先駆緊急特集「新型コロナウィルス感染症」
- 2021 9 先駆1000号

書、「わたしの一冊」、「ほん」などのタイトルで筆者を替えながらほぼ毎号掲載されている。他にも「短歌」、「俳句」や「ローカルから」、「私のこだわり」などのコーナーも登場、表紙写真のカラー化やイラスト、現代アートの採用など読まれるための工夫、努力があり、実に多くの人たちに支えられて1000号を迎えたことが実感できる。

『先駆』が月刊雑誌となつてから臨時増刊は8号発行されている。このうち3回は節目となる同盟大会報告で、5回は長期連載に手を加え、冊子としてまとめたものだ。このうち「第19回大会報告集（ソーシャル&グリーン）」（2001年）、「格差社会」をめぐる論争（上）（下）（2007年）が読者からは好評だった。

最後に編集体制について一言。『平和と社会主義』時代は編集拠点は関西にあり、『先駆』時代の1969年に機関紙編集局が東京に移管。それ以来、東京編集と見られがちだが、1999年から数年間、関西先駆社が隔月で編集を担当する時期があったことを付記しておく。

・「大正デモクラシー」もう一つの可能性」2014/2〜15/2 13回 安藤紀典

・「闘う労働運動の軌跡」2015/3から17/4 12回 江藤正修

・「日本原・奈義町」2015/1〜16/7 19回 三浦孝介

・「日米地位協定・読解」2016/8〜18/5 20回 三浦孝介

・「革命運動史における『社会』の欠落」2017/1〜17/12 11回 安藤紀典

・「ロシア革命100周年 ロシア革命と日本人々」2017/6〜18/5 12回 吉武章栄

・「評伝飛鳥井雅道」2018/4〜現在進行形 安藤紀典

・「産別労働運動史」2019/9から21/5 16回 「番外編」21/6〜9 3回 小林良暢

・「60年安保闘争 記録と記憶」2020/2〜21/9 18回 吉武章栄